

# フェリーペ2世の時代

# スペイン・ハプスブルク帝国 ——フェリーペ2世時代



## ○フェリーペ2世

(1527~1598、在位1556~1598)

「書類王」

「慎重王」



# 祈祷するフェリーペ2世の家族



左から

- ・ マリア・マヌエラ(1)
- ・ イサベル・デ・ヴァロワ(3)
- ・ フェリーペ2世
- ・ ドン・カルロス(長子)
- ・ アナ・デ・アウストリア(4)



# フェリーペ2世の4人の王妃

(1) マリア・マヌエラ



(3) イサベル・デ・ヴァロワ



(2) メアリ・テューダー



(4) アナ・デ・アウストリア



# エル・エスコリアル宮殿

- ・ スペイン・ルネサンスの代表的建築
- ・ 1563年に着工、84年に完成
- ・ サン・カンタンでの勝利（1557年8月10日、聖ロレンソの日）を記念



# フェリーペ2世の生涯(1)

- ・ 1527年、スペインのバリャドリーで、前年にセビーリヤで結婚したカルロス1世(26歳)とイサベル(ポルトガル王女)(23歳)のあいだにフェリーペが生まれる。

※カルロスの母フアナとイサベルの母マリアは姉妹(カトリック両王の娘たち)なので、二人は従兄妹どうし。

- ・ 1539年5月、母イサベルがトレードで死去。

※イサベルの遺骸はグラナダの王室礼拝堂に埋葬。

- ・ 1539～41年、ヘント反乱鎮圧のため父カルロスはフランドルに向かう。フェリーペは、不在中のスペイン国王代理となる。

※摂政に、トレード大司教パルド・デ・タベーラ

- ・ 1543～48年、フェリーペ(16歳)が正式の摂政となる。

※「息子よ、正義を愛せ。……大切なのは、正義である。決して、怒りの結果、行動した、ということの無いように。」

※「息子よ、そちはまさに結婚しようとしている。……結婚に決して溺れてはいけない。自制しなければいけない。さもないと、健康を害すばかりか、そちの大叔父カスティーリヤのファン王子のように、自らの命を危険にさらす恐れがあるからだ。」

## フェリーペ2世の生涯(2)

- ・ 1543年、フェリーペはマリア・マヌエラ（ポルトガル王女）（16歳）と結婚。
  - ※イサベルの兄ジョアン3世と父方の叔母カタリーナの娘（1527～45）
- ・ 1545年、マヌエラ・マリアはカルロスを出産し、4日後に死去。
- ・ 1548年、父カルロスはフェリーペ（21歳）をネーデルラントに呼ぶ。
  - ※フェリーペに帝国の領土を回らせようとする。フェリーペの妹マリアと夫マクリミアン（フェリーペの従弟）がスペインの摂政。
  - ※「フェリーペの大旅行」、1548年10月～1551年7月。ジェノヴァ、ミラノ、ネーデルラント、ドイツ。
- ・ 1551～54年、フェリーペ（24歳）がスペイン摂政に戻る。
- ・ 1554年、フェリーペはロンドンに向かい、イングランド女王メアリ・テューダー（在位1553～58）（38歳）と結婚。
  - ※想像妊娠の顛末。1年2ヶ月のイングランド滞在。

## フェリーペ2世の生涯(3)

- ・1555年10月、フェリーペはブリュッセルに向かう。  
※1555年10月、カルロスのブルゴーニュ公爵位からの退位式
- ・1556年1月16日、カルロスはスペイン王位を退位、**フェリーペ2世の即位**。
- ・1557年3月～7月、フェリーペ2世はイングランドに滞在。※お金と歩兵を引き出す。
- ・1557年8月10日(聖ロレンソの日)、フランスにサン・カンタンの戦いで勝利
- ・1558年9月21日、カルロスがユステ修道院で死去(58歳)。
- ・1558年11月17日、メアリ・テューダーが死去(42歳)。
- ・1559年4月、フランスとカトー・カンブレジ条約を締結。



## フェリーペ2世の生涯(4)

- ・ 1559年、フェリーペは、イングランドのエリザベス女王に結婚を申し込むが拒絶される。
- ・ 1560年、フェリーペとイサベル・デ・ヴァロワ (1546～68、アンリ2世の長女、「平和王妃」)(13歳)との結婚。
- ・ 1561年、宮廷をマドリードに移す。
- ・ 1566年、イサベルはイサベル・クララ・エウヘニアを出産、翌年にはカタリーナ・ミカエラを出産。
- ・ 1568年、王子ドン・カルロス死去。
- ・ 1568年、王妃イサベルの死去。
- ・ 1568年、オランダ独立戦争の開始。
- ・ 1568年、グラナダのモリスコ反乱。
- ・ 1570年、フェリーペが姪のアナ・デ・  
アウストリア (1549～80、妹マリアとマクリミアン2世の娘)と結婚。



## フェリーペ2世の生涯(5)

- ・ 1571年、**レパントの海戦**

※総司令官に、フェリーペの異母弟フアン・デ・アウストリア

- ・ 1578年、フアン・デ・アウストリアが死去。

- ・ 1578年、王子フェルナンドの死去(1571年誕生)。

※王子ディエゴ、フェリーペ(1578年誕生、のちのフェリーペ3世)

- ・ 1580年、王妃アナの死去。

- ・ 1580年、フェリーペ2世がポルトガル王位を手に入れる。  
⇒「太陽の没することなき帝国」

- ・ 1588年、**無敵艦隊の敗北**。

- ・ 1591年、アントニオ・ペレス事件とアラゴンの反乱

- ・ 1598年9月13日、フェリーペ2世がエル・エスコリアルで死去(71歳)。「時が来た。」

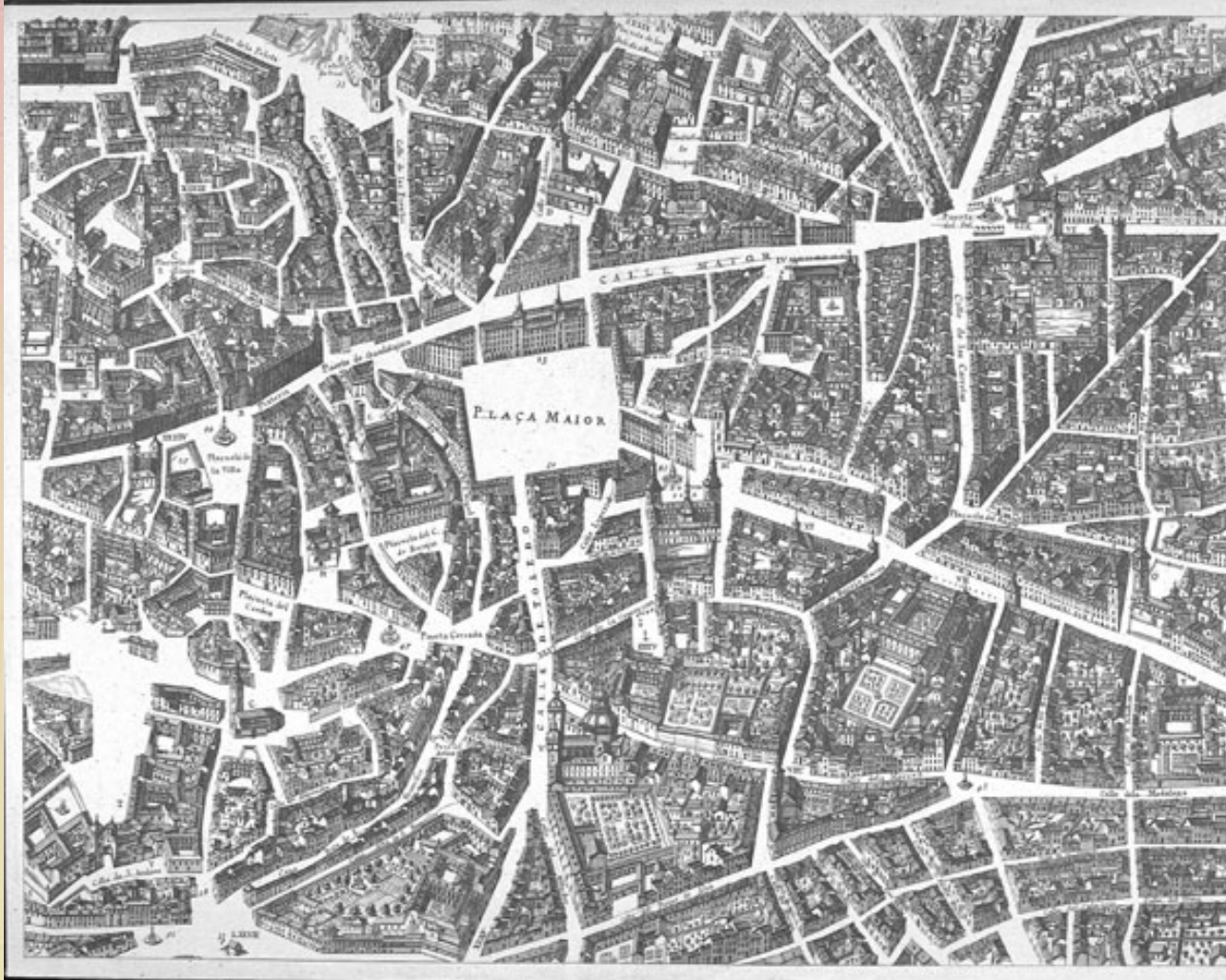
## フェリーペ2世の支配地域「太陽の沈まぬ帝国」

- ・ スペイン本国、アメリカ、ナポリ、シチリア、ミラノ、フランドル
- ・ (1580年～)ポルトガル、その海外領土(アフリカ、インド、アジア)



フェリーペ2世の支配地域

# 帝都マドリッド



- ・ Pedro Texeiraの地図(1656年)

# 帝都の地政学的理由



「遍歴の国王」から「帝都に暮らす国王」へ

—— 官僚機構整備の必要、  
「宮廷都市」

—— バリャドリー(\*)

—— レオン

—— ブルゴス

—— サラマンカ

—— アビラ

—— トレード

—— セビーリャ

—— リスボン

—— マドリード、1561年～

(\*)1601～1606年に宮廷が置かれる。

# フェリーペ2世の日課

## ・「書類王」

- 8時起床 -ベッドで書類を読む -着替え -ミサへの列席
- 役人や大使への謁見 -正午に昼食 -午睡
- 書類に目を通して決裁 -9時に夕食

「もう10時だが、食事を済ませていない。疲れ切ってしまった。」  
(一日に400もの書類を決裁)

## ・「慎重王」

- 案件を配分できず。未決裁の山。
- 体調を崩すと、帝国行政は停滞。  
(無敵艦隊の準備期など)



# フェリーペ2世のカトリック信仰

## ・ カトリシズムによる国家統合

―「異端者に君臨するくらいなら命を百度失うほうがよい。」「宗教が第一義だ。」

## ・ 非正統的言動の取り締まり

―異端審問所の整備

(トリエント公会議に基づく信仰の正統性擁護の機関)

⇒取り締まり対象の拡大:プロテスタント、照明派、冒渎、重婚、等等。

―スペイン人の国外留学の禁止、出版物の検閲強化

## ・ モリスコの同化政策

―アラビア語の禁止

―イスラーム風俗・習慣を禁圧(1567年)

⇒グラナダのモリスコの反乱(1568~1570年)

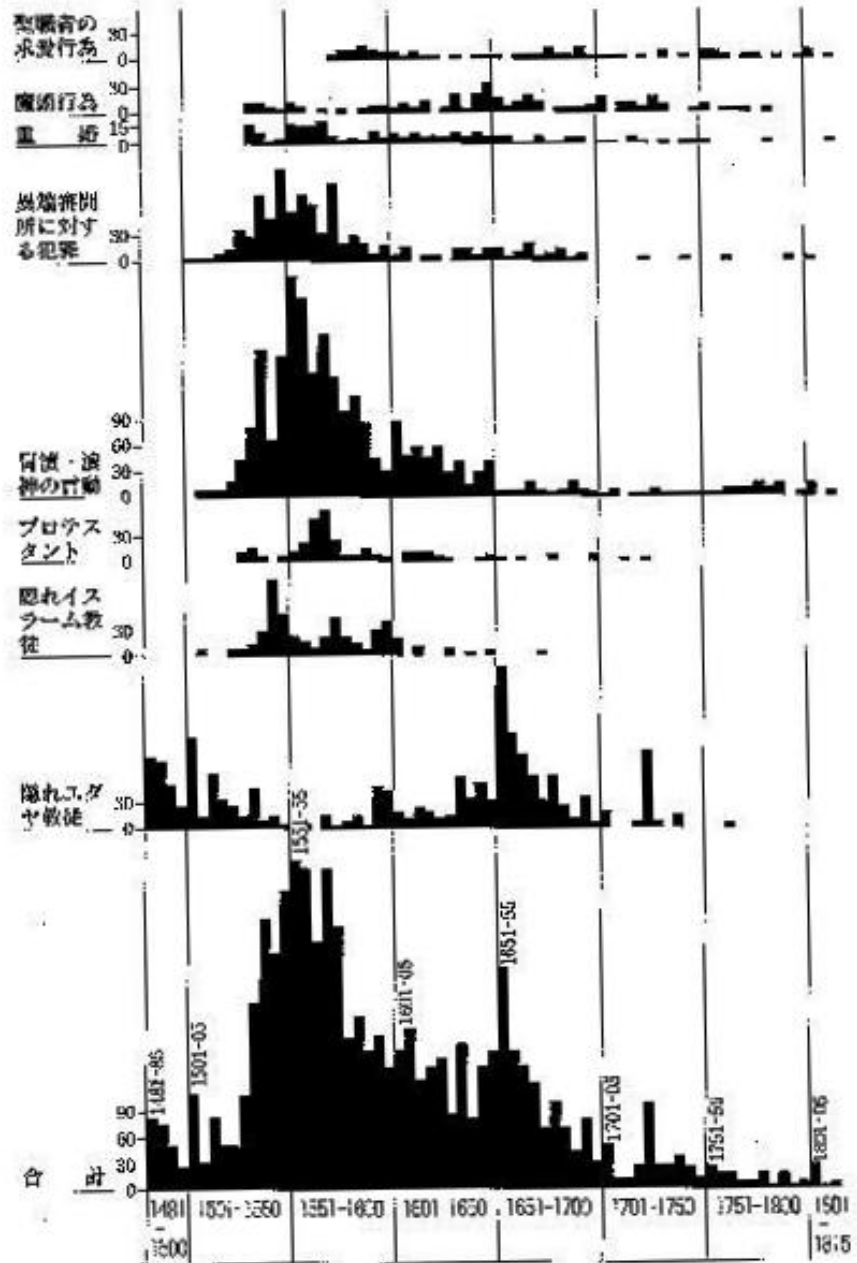
⇒カスティーリャ各地への強制移住

※「血の純潔」規約の広がり:

「(祖先に)ユダヤ教徒やモーロ人の血が混じらない」

# 異端審問所の活動

- ・ (トレード管区審問所の内容別審理件数の推移)



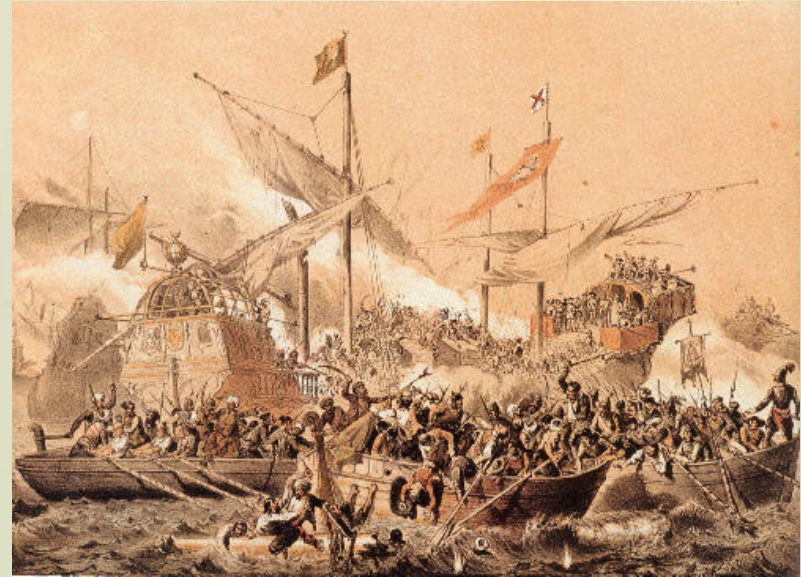
トレード管区審問所 5年ごとの審理件数とその種類(1月当りは5年平均)



# フェリーペ2世の対外政治

## ・ オスマン・トルコとの対抗

- 教皇庁、ベネツィアと神聖同盟を結成
- 1571年、レパントの海戦  
(セルバンテスが右腕を負傷)



## ・ フランスとの対抗

- 1559年、カトー・カンブレジ条約
- フランスのイタリアからの撤廃。「スペイン優位の時代」
- フランス国内の宗教戦争(ユグノー戦争)への介入

# スペインとポルトガルの「統合」

- ・ 中世末から密接な婚姻関係を結ぶ。
  - ・ 1578年、モロッコのアルカセル・キビルの戦いで、ポルトガル王セバスティアン(在位1557～78)が戦死。
  - 1580年、後継王ドン・エンリケが死去、後継者を指名せず。
  - マルエル1世の孫——ブラガンサ公妃カタリーナ、ドン・アントニオ、フェリーペ2世が有力候補者
- ⇒フェリーペによる買収、武力介入
- ・ 1581年、ポルトガル王国議会はトマールでフェリーペを承認、**フェリーペ1世(在位1581～98)**として即位。

※ポルトガル議会はポルトガル人によって構成され、議会の同意なしに課税されないことに同意。行政と司法の官職もポルトガル人によって占められる。

※国王不在の間の統治は、ポルトガル人によって占められる摂政会議。

# フェリーペ2世とネーデルラント

- ・ ネーデルラントの統治政策
    - ーカトリシズム擁護と強圧的集権化政策
    - ー異端審問制の導入とカルヴァン派弾圧
  - ・ オランダ独立戦争  
(1568～1648年)
    - ー南部の離脱
    - ー北部7州の抗戦
    - ー1581年、独立の宣言
- ⇒泥沼戦争⇒「スペインの優位」の瓦解



# 無敵艦隊の敗北(1588年)

- ・ イングランドのエリザベス1世のネーデルラント反乱支援

ー前スコットランド女王でカトリックのメアリを処刑

- ・ 1588年、「無敵艦隊」の派遣

ードーヴァー海峡の海戦で敗北

⇒スペインの海上権力に大打撃となる



「神がこんな不幸をお許しになるはずがない。私はすべて神のために行なったのだから。」



# フェリーペ2世の信仰心のマシ

- ・ 無慈悲な国家理由
  - ・ 庶民に過酷な税負担
    - ー エスコリアル宮殿兼修道院の建設
    - ー 「無慈悲な国王」という批判
- ⇒ 《ルクレシアの夢》

参照: ケーガン著『夢と異端審問』(松籟社)

- ・ 異教的な官能？
  - ー ボッスの絵画を好む。
  - ー エル・グレコを好まず。



# スペイン帝国の黄昏

## ・ カトリック擁護政策のスペインにもたらした人的・物的負担

- ネーデルラントの反乱に対処するための軍事支出
- カルロスの残した借金
- **破産宣言** (国庫支払停止措置)
- 長期公債(フロ)の増大——1516年～90年に13倍

## 王室財政の確保のための政策

- 貴族爵位、官職、王領地の売却
- 公債の発行
- 1590年、ミリヨネス税(消費税)の導入
- **新大陸からの銀** ←——1545年、ポトシ銀山の発見。水銀アマルガム法の導入。

## ・ 借金増大と経済衰退

- 歳入の8倍にのぼる公債
- 1590年代～ 人口減少、経済後退が顕著となる
- 1630年代～ **銀流入の激減**